

## 熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセスの特徴

福永 美紀（応用看護学）

**【キーワード】** 熟練助産師 分娩期 介入 助産ケア プロセス

**【目的】** 熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセスの特徴について明らかにすることである。

**【対象と方法】** 研究対象者は、A県内の産婦人科施設で10年以上勤務経験があり、CLoCMiPレベルⅢ認証を受けている、または同等の経験をもつ助産師11名とした。研究デザインは、半構造化面接を用いた質的帰納的研究である。調査期間は、2021年3月～7月であり、書面による基本的属性の調査と、インタビューガイドを用いた半構造化面接を行った。インタビューは、研究対象者に口頭及び文書による同意を得て、すべてICレコーダーに録音した。録音されたデータは逐語録として分析資料とした。分析方法は、Berelson, Bの内容分析の手法に基づき行った。逐語録より、分娩期に介入する助産ケアのプロセスの特徴に関する文脈を抽出し、分類した内容ごとに分けてプロセスの特徴を明らかにした。

**【結果】** 熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセスの特徴は、【妊娠中から継続した助産師の関わり】【分娩進行を把握するために必要な産婦の状態と分娩3要素の情報収集】【分娩進行に影響する産婦の状態と分娩3要素のアセスメント】【産婦の状態と分娩3要素から分娩進行状況と介入の時期の判断】【分娩を促進させるための積極的な介入】【産婦の体力を回復させながら分娩進行を待つ介入】【産婦に寄り添い産婦に変化が見られた時の介入】【産婦と産婦を支える人との関係性の分娩経過への影響】の8つのコアカテゴリに分類された。

**【結論】** 熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセスの特徴は、以下のことが明らかになった。

1. 自然な陣痛発来を促し、正常な分娩進行を促すためには、妊娠中から冷えを予防し、主体的な行動がとれるように【妊娠中から継続した助産師の関わり】が必要であった。
2. 【分娩進行を把握するために必要な産婦の状態と分娩3要素の情報収集】【分娩進行に影響する産婦の状態と分娩3要素のアセスメント】は、「手で観る」など観察の方法や情報の引き出し方に特徴があった。
3. 【産婦の状態と分娩3要素から分娩進行状況と介入の時期の判断】は、子宮口5～6cm開大時、子宮口8～9cm開大時に、産婦の状態や性格、希望に合わせた介入の時期の判断を行っていた。
4. 分娩遷延した時の助産ケアの介入の特徴は、【分娩を促進させるための積極的な介入】のみならず、【産婦の体力を回復させながら分娩進行を待つ介入】、【産婦に寄り添い産婦に変化が見られた時の介入】により、分娩進行を阻害する要因を見極め、新たな助産ケアの介入方法を再構築していた。
5. 【産婦と産婦を支える人との関係性の分娩経過への影響】は、分娩遷延した時は助産師の変更により、場の空気を変え、正常な分娩進行につなげていた。